

WEEKLY SIGNAL

平成31年2月1日(金) 1460号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	2/4(月)	2/5(火)	2/6(水)	2/7(木)	2/8(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,100	+ 1,000	ト ン	ト ン	ト ン
財政他	△ 80,100	+ 3,000	△ 22,000	△ 1,000	△ 1,000
資金需給	△ 79,000	+ 4,000	△ 22,000	△ 1,000	△ 1,000
主な要因	税・保険揚げ 国庫短期証券(3M) 発行・償還		国債発行(10年)		国庫短期証券(6M) 発行・償還 国債発行(30年)
オペ期日	共通担保(全店) CP等買入	△ 1,700 △ 100			
オペスタート	共通担保(全店)	+ 700			
(日本)	マネタリーベース(1月) 日銀営業毎旬報告(1月31日現在) 日銀が保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額			景気動向指数(12月)	国際収支(12月) 毎月勤労統計(12月)
(海外)	米 グローブ連銀総裁、講演 米 製造業受注(11月)	米 ISM非製造業景況指数(1月) 欧 ユーロ圏総合PMI(1月、改定値) 欧 ユーロ圏サービス業PMI(1月、改定値)	米 ハウエルFRB議長、教育者との クワンホールミーティング主催 米 貿易収支(11月)	米 セントルイス連銀総裁、講演 米 新規失業保険申請件数 (2月2日終了週)	

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初387兆6,700億円から始まった。その後は国債買入オペや国庫短期証券買入オペ等を主因に388兆円台まで増加したものの、週末となる2月1日には国債の発行要因等から減少し385兆9,600億円となった。
無担保コールON物は、先週に引き続き資金調達ニーズが限定的であったため、週を通して軟調な地合となった。同加重平均金利は△0.064~△0.060%のレンジで推移した。ターム物は1W~2W物を中心に、△0.035~△0.025%の水準で出合が見られた。
米連邦準備理事会(FRB)は30日、連邦公開市場委員会(FOMC)において政策金利の誘導目標を年2・25~2・5%に据え置くことを決定し、年内の追加利上げを見送る可能性を示唆した。
来週の主な予定は、国内ではマネタリーベースの公表(4日)や、営業毎旬報告(4日)などがあり、1月の海外では米ISM非製造業景況指数(5日)などがある。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.35 ~ △0.25
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約2兆円で、週間償還額(約1兆8,000億円)に対し発行超となった。発行市場は、月末の大量償還(1兆4,000億円)に対しては償還超だったが、週間を通して複数の業態からの大型発行があり、活況を呈した。1月末の市場残高は21兆1,436億円となり、月末残高では2008年9月以来の21兆円台となった。発行レートは、投資家の根強い運用ニーズにより0%のレンジで変わらず、28日にオファーされたCP等買入オペは、予定通り2,500億円で実施された。月末の大量発行を控え、ディーラーの保有ポジションの入れ替えニーズがあり、按分レートは△0.001%と前回比+0.001%上昇する結果となった。来週の償還総額(2/4~2/11)は、5,700億円程度となっている。発行市場は、引き続き事業法人の発行ニーズが強く、ショートターム物中心に相応の発行が見込まれる。発行レートは、投資家の購入ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺での出合いとらう。CP等買入オペが、5日に2,000億円でおfferされる予定。

<TDB>

2月1日入札の3M811回債は、最高落札レート△0.2307%(前回債△0.1878%)、平均落札レート△0.2653%(同△0.1932%)と前回債から利回りが大幅に低下。償還日が5月13日の為、大型連休明けの担保ニーズが強く、およそ2カ月ぶりの低水準となった。入札後のセカンダリー市場は△0.27%程度と、入札水準での出合であった。
来週は7日に6M、8日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.125%~△0.135%の出合い。月末初の出合いとなる31日受渡しは、前場△0.12%~△0.13%、後場は△0.11%台まで上昇した。1日受渡しの後場以降は△0.09%~△0.095%で多く取引された。SC取引では10年351回債、352回債、353回債のbidが多く、351回債は△0.10%台半ば、352回債、353回債は△0.10%台前半が出合いの中心であった。その他2年396・397回債、5年136・137・138回債、10年340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350回債、20年163・164・165・166・167回債、30年59・60・61回債、40年10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。